

富山市教育委員会 1 月定例会 資料

令和3年度富山市通学区域審議会の審議状況について

[学校再編推進課]

(1) 開催状況

開催日	審議内容等	参考資料
第1回 令和3年10月15日(金)	諮問・経緯及び現状説明	
第2回 令和3年10月29日(金)	審議①(富山中央、富山西部、 富山東部)	第2回審議内容とりまとめ
第3回 令和3年11月11日(木)	委員視察	委員視察の概要
第4回 令和3年11月30日(火)	審議②(富山北部、和合、呉羽)	第4回審議内容とりまとめ
第5回 令和3年12月15日(水)	審議③(大沢野・細入、大山)	
第6回 令和4年1月17日(月)	審議④(八尾・山田、婦中)	

※なお、第5回および第6回審議会の審議内容については、第7回審議会において、とりまとめを行うこととしている。

(2) 今後の審議会(予定)

開催日	審議内容等
第7回 令和4年1月31日(月)	第5回審議会の振り返り 第6回審議会の振り返り 全体振り返り(答申案)、意見交換
第8回 令和4年2月7日(月)	答申案

※今後の審議状況によって変更されることがある。

令和3年度 富山市通学区域審議会
第2回審議会における審議とりまとめ

I 富山中央地域

—ポイント—

- 富山中央-3(1)(2)は、長期的に適正規模を維持し、教室数に余裕があり、通学距離が3kmを超える児童はいないことが見込まれ、中学校進学時の児童の心の負担が小さい。合理的に考えれば最もよいが、柳町小学校区が2つに分かれるため、地域の理解を得る必要がある。
- 富山中央-1は柳町小学校区が2つに分かれない案であり、地域へ示す際の選択肢となり得るが、通学距離が3kmを超える児童への対応が必要である。

1 進学先中学校について

- 富山中央-1では進学先中学校が4つとなり、富山中央-2では一部の児童だけが東部中学校へ進学することとなる。学校選択制があるのでそこまでこだわらなくてもよいかもしれないが、寂しさなど児童の心の負担という点で不安を感じる。 [学校関係者]
- 富山中央-3(1)(2)では、友達と同じ中学校へ進学できる。また、例えば5年生から6年生になるときに統合があったとすれば、1年早く進学先中学校の友達と一緒に過ごして学習できる環境となり、安心感にもつながるのではないか。 [学校関係者]
- 全員が同じ中学校に進学することによって、中学校への所属感のようなものを感じられるように意識が変わっていくと思う。 [学校関係者]

2 通学距離・通学路について

- 富山中央-1、富山中央-2について、今後も恒常的に1～2%程度の規模で、通学距離が3kmを超える児童が入学してくると考えてよいだろう。 [学識経験者]

○富山中央-3(1)(2)では、通学距離が3kmを超える児童はならず、徒歩で通学することができる。〔学校関係者〕

○富山中央-3(1)において、柳町小学校区の児童が奥田小学校に通う場合、線路を挟んで通学することになるが、その通学路は小学校1年生の児童が歩くことを踏まえても特に支障のないよう配慮する必要がある。〔学識経験者〕

3 教室数について

○少人数指導等を行ったり、特別支援学級が増えている現状があったり、クラスの定数が変わったりすることを想定すると、教室数に余裕があったほうがよい。〔学校関係者〕

4 地域の理解について

○富山中央-3(1)(2)では、柳町小学校区が2つの校区に分かれることについて地域の理解を得る必要がある。〔学校関係者〕

5 地域、保護者への案の提示の仕方

○審議会では合理的に考えると富山中央-3(1)(2)がよいという意見が多かったと示した上で、教室数も余裕があり、通学距離が3kmを超える児童に配慮するとして、富山中央-1を富山中央-3(1)(2)に準ずる案として複数案で提案した方が、地域の方の考えの幅が広がって理解が深まり、納得していただけるのではないかと。〔学識経験者〕

○中学校のブロックごとに自治振興会のつながりがあると思うので、中央小学校と統合する富山中央-1を示すと、現在つながりのない自治振興会と統合するという点で、奥田小学校や東部小学校とは統合にならないのかと聞かれると思う。奥田小学校と統合することが難しい理由として、奥田小学校と統合した場合は大規模になることを、富山中央-2で示した方がよいのではないかと。〔PTA代表者〕

Ⅱ 富山西部地域

—ポイント—

■通学距離が3 kmを超える児童が過半数となるため、スクールバスの運行やそのルートについて工夫する等、丁寧に対応することを念頭に、妥当な案である。

1 通学距離について

- 過半数の児童の通学距離が3 kmを超えるのは、鶯坂地区とつながる居住誘導区域に多くの児童が住んでいること、また、五福小学校が移転したことによるのではないかと。しかし、地域生活圏が異なり、大規模校になることから、鶯坂小学校と統合するのは難しい。 [PTA代表者]
- 羽根地区から神明小学校に向かうルートに大多数の児童が居住していると思うので、その道を通るスクールバスの運用により、通学距離の問題は解決できるのではないかと。 [PTA代表者]
- スクールバスを運行するとしても、ルートの選定、集合場所など、しっかりしたものを用意しないと、地域の理解を得るのは難しい。 [学識経験者]
- 現在の五福小学校に通う児童の中にも通学距離が3 kmを超える児童がいることから、スクールバス等で対応する場合、どの児童をスクールバス通学の対象とするか考慮する必要がある。 [学識経験者]
- 羽根地区から鶯坂小学校まで(約1.7 km)、有沢地区から光陽小学校まで(約1.7 km)は徒歩圏内で、歩けば体力向上につながる。安全な通学路が確保できるのであれば、特殊事情として、羽根地区、有沢地区に居住する児童に通学する学校を選択できる余地があるといい。 [学校関係者]

Ⅲ 富山東部地域

—ポイント—

- 長期的に適正規模になり、教室数も充足しているが、通学距離が3 kmを超える児童へは丁寧に対応する必要がある。
- 太田小学校の再編を議論しているのは、一時的に全学年単学級でなくなる可能性はあるものの、長期的には全学年単学級となると見込まれるからであり、このことについて丁寧な説明が必要である。

1 通学距離について

- 通学距離が3 kmを超える児童が半数近くおり、丁寧な対応が求められる。

〔学識経験者〕

- 富山西部地域にも共通するが、小学生の間はスクールバスで通学し、中学生になると自転車通学に切り替わることが想定される。既にスクールバス等を利用している地域も参考に、児童生徒の負担が大きくならないよう柔軟に対応されたい。

〔学識経験者〕

2 今後の学級数の変動について

- 太田小学校の児童数の変動を見ると、令和7年度は201人、令和12年度は205人となっており、200人という学校規模では全学年単学級とならない可能性もあるが、令和17年度以降は全学年単学級になると思われる。

〔学校関係者〕

IV その他

1 地域への理解について

—ポイント—

■地域との連携や意見を聞くことは、再編計画策定後に議論を進める上で大切なことである。一方で、本審議会は、子どもたちの教育環境を将来的にも担保するという立場で審議を行い、地域の方との議論を進める上で必要な材料を提供することが肝心である。

- 地域の思いは数字だけでは算定できず、データだけでは判断も難しい。地域の中での生き方、将来の担い手の育成という観点からも、義務教育段階は大切な時期である。 [学識経験者]
- 地域、学校には歴史や文化があり、住んでいる方しか分からない悩みもある。審議会の場合において、一般論として発言するのはよいが、地域のことを軽々しく判断するのはよいことではない。 [学識経験者]
- 年代によって違った考え方があるので、地域の方々の意見をなるべく聞くことは大事である。 [学識経験者]

令和3年度 第3回富山市通学区域審議会（委員視察）の概要

富山市小・中学校再編原案を審議する上で参考とするため、小規模校及び適正規模校の授業風景等を視察したもの。

1 日時

令和3年11月11日（木） 13:00～15:30

2 視察先および参加者

A班	
視察先	福沢小学校（児童数 32 人・3 学級） 東部小学校（児童数 475 人・16 学級）
参加者	中村会長、石動委員、菊川委員、國香委員 斉藤委員、堀田委員、松井委員、渡辺委員（当時）
B班	
視察先	船嶺小学校（児童数 45 人・5 学級） 光陽小学校（児童数 497 人・17 学級）
参加者	品川副会長、江尻委員、笹田委員、城岡委員 高木委員、藤田委員、吉田委員



【 視察の様子 】

令和3年度 富山市通学区域審議会
第4回審議会における審議とりまとめ

I 富山北部地域

—ポイント—

- いずれの案も妥当であるが、富山北部-1は再編後の地域固有の取り組みの継承が課題である。
- 富山北部-2、富山北部-3(1)(2)は校区が分かれるかどうかについて、地域の方々の意見、選択を尊重することが大切である。
- 通学距離が3kmを超える児童については、通学手段の確保、過度な負担を与えないような工夫、取り組みが必要である。

1 通学区域変更について

○校区が分かれることの賛否については、地域によって温度差があると思う。

〔学識経験者〕

○現在は針原小学校の児童の一部が新庄中学校に進学するが、針原小学校のすべての児童が北部中学校に進学することになれば、富山北部-2でも中学校進学先が分かれることはなく、児童に精神的な安定を求めることができる。一方で新庄中学校の方が近い場所に居住する児童もいるので、富山北部-2では、北部中学校と新庄中学校のどちらに進学するかを選択できるような弾力性があるとよい。

〔学校関係者〕

2 スクールバスについて

○小学1年生では2kmを超えると1時間以上歩くことになるため、スクールバスの対象範囲について検討が必要だと思う。

〔学校関係者〕

3 地域文化について

○岩瀬固有の祭り等の伝統文化の子どもたちへの継承について、岩瀬小学校については統合後も配慮が必要である。

〔学校関係者〕

Ⅱ 和合地域

—ポイント—

- 和合-1 がよいとする意見が多く、小・中学校併設による様々な教育の展開の可能性が考えられる。
- 小・中学校併設の検討にあたっては、通学距離が3kmを超える児童に配慮するなど、保護者や地域の理解を得られるよう努められたい。

1 中学校併設としたときの教育環境について

- 和合中学校の用地は広く、隣に和合運動広場もあり、利用価値があると思うので、中学校併設案（和合-1）がよい。 [学識経験者]
- 地域内のいずれの小学校も進学先は和合中学校であることから、芝園小学校、芝園中学校のような造りになると思う。地域の声も十分聞いたうえで同意が得られれば、中学校併設案（和合-1）がよい。 [学校関係者]
- 高岡市国吉義務教育学校の教育は素晴らしく、地域からの評判もよく、他校区から通学したいという希望もあるようである。新しい形での併設型小中一貫教育をするのであれば、モデルになるような教育内容も、学校を造るのと同時に考えてもらいたい。 [学識経験者]
- 中学校併設案がいいと思うが、小中継続した教育により何を指すのかという姿勢についても、地域に対して丁寧に説明してほしい。 [学識経験者]

2 地域生活圏と通学距離について

- 中学校において徒歩通学と自転車通学の境目はおよそ2kmであるということも踏まえ、徒歩で通学できる距離について、3kmというよりは2kmとした方が適切ではないか、考えていく必要がある。 [学校関係者]
- 和合-1では通学距離が3kmを超える児童が約50名いるのに対し、和合-3ではほとんどの児童の通学距離が3km以内である。また、他地域の小学校よりも地域生活圏内の小学校の方が通学距離が遠くなる場合も考えられ、地域生活圏と通学距離のどちらにウエイトを置くかという観点もあるとよいのではないか。 [学識経験者]

Ⅲ 呉羽地域

—ポイント—

- 呉羽小学校に最終的に統合するという形であれば、地域の理解を得ながら、複式学級の解消を優先するなど、柔軟なスケジュールで統合を進めていくことが望ましい。
- 通学距離が3 kmを超える児童への対応が必要である。
- 放課後や長期休暇の子どもの居場所確保を考慮することや、従来からの学校間の結びつきに配慮することが必要ではないか。

1 段階的統合の進め方について

○複式学級のある学校と全学年単学級の学校では、保護者の統合に対する意識は異なると思う。一次統合の時期は違っていてもいいということなので、一次統合は保護者や地域の意見を聞きながら、切実感のあるところから考えていってはどうか。 [学校関係者]

○呉羽地域のある町内会では、小学校がなくなるのはさみしいが複式学級を解消しなければならないという意見が大半で、統合には概ね賛成のようだった。それでも地域への説明を始めてすぐに再編できるわけではなく、その間にも児童数は減少する。最終的にはすべて呉羽小学校に統合するので、呉羽小学校のキャパシティを考慮しながらではあるが、最初から呉羽小学校に統合する、あるいは、一次統合にとらわれず、各校区で丁寧に意見を聞き、合意したところから順次、呉羽小学校に統合していくといった方法もある。

[学識経験者]

○地元からは、古沢小学校や池多小学校は老田小学校に一次統合するのではなく、複式学級の解消を優先し呉羽小学校に統合した方がよいという意見があった。 [学識経験者]

2 通学距離について

○呉羽地域は広いので、呉羽小学校に最終統合する場合、スクールバスの運行が必要である。 [学識経験者]

3 教室充足状況について

○子ども会のなかには、学校の教室を借りて開設している場合もあると思うが、放課後や長期休暇の児童の居場所の確保は引き続きお願いしたい。

[PTA代表者]

4 学校間のつながりについて

○それぞれの学校間の交流が進められてきた歴史的な流れから、古沢小学校と池多小学校および寒江小学校と老田小学校は切り離せない学校である。

[学校関係者]

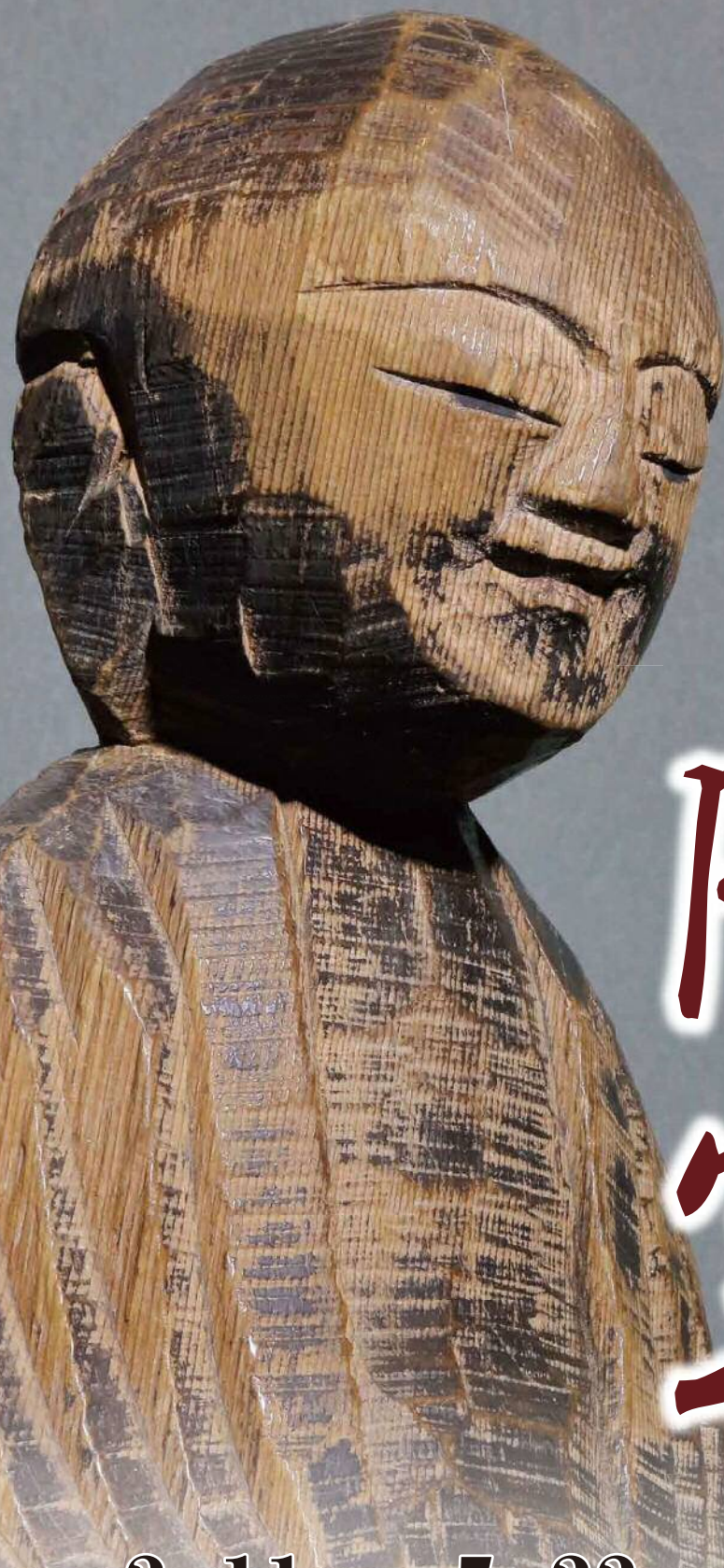
その他 1

猪谷関所館企画展

飛騨地方の円空仏 写真展

微笑みの美仏

円空



■円空（一六三二年〜一六九五）

江戸時代初期の僧。全国を行脚しながら数多くの神仏像を残し、
鉋で削り出した素朴で荒々しい造形が人々を魅了しています。

細入地域でも二十四体が見つかっており、うち八体を当館で展示。
飛騨地方には約五百体が残されており、その中から厳選した円空
仏の美しい微笑みを伝えます。

寶頭盧尊者 千光寺(高山市)

【開催期間】 令和4年2月11日祝 ▶ 5月22日日

【開館時間】 午前9時から午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】 月曜日、祝日の翌日（土・日を除く）

【入館料】 150円、高校生以下無料

【後援】 北日本新聞社

【協力】 円空学会



主催／富山市猪谷関所館 (富山市猪谷978-4 ☎ 076-484-1007)

お茶と美のこころ

企画展 佐藤助庵の蒐集と創作



床／佐藤助庵筆《洗心》、茶室／柳汀庵（外からのみご覧いただけます。）

2022
2/5 (Sat) - 4/10 (Sun)

休館日 2/22 (Tue)

開館時間 9:00 - 17:00 (入館は 16:30 まで)

観覧料 大人 210 円 (団体 170 円)、高校生以下無料

主催 富山市、富山市佐藤記念美術館

富山市佐藤記念美術館

〒930-0081 富山市本丸1-33(富山城址公園内)
TEL.(076)432-9031 FAX.(076)432-9080

お茶と美のこころ

富山の美術や茶道文化の振興に力を注いだ当館の創設者、佐藤助庵（12代目助九郎、1896～1979）。現在の富山県砺波市に生まれ、早稲田大学に進学。家業の土木建設業を継ぎ、貴族員議員にも選ばれるなど戦前から戦後にかけて地方政財界で活躍した実業家でした。その一方で書画や漢詩、俳句をよくし、茶の湯を愛した風流人「助庵」として知られたひとでもありました。

幼い頃より生家にあった茶室「柳汀庵」に出入りし、茶に親しんだという助庵は裏千家に学び、14代淡々斎から北陸初の今日庵老分「宗越」の茶名を頂戴しています。また、日本の電力事業を牽引した「電力の鬼」松永安左エ門（号・耳庵、1875～1971）を師として慕い「助庵」という号を頂き、終生この号を用いました。

助庵は茶杓や掛物、茶碗、花入などの茶道具を自作しています。特にやきものに関しては、晩年に富山市呉羽山の麓に「呉山窯」という窯を築き、自ら土作り、成形、釉薬の研究、焼成までをも手がけ、多様なやきものに取り組みました。

戦後、助庵は茶室「柳汀庵」や「書院」の保存と、自身の蒐集品を公開する美術館の設立を思い立ちます。その根底には、戦争により傷ついた人々のこころを癒す場所になってほしいという助庵の思いがあったようです。本展では、生前に助庵が蒐集した茶道具や美術品、そして彼の創作活動や交流を示す品々により、助庵のこころを「お茶と美のこころ」を紹介します。



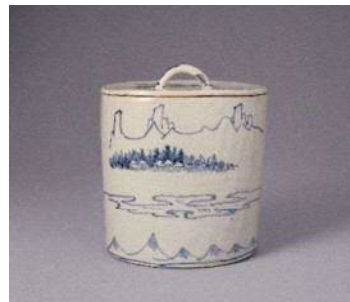
石山切 貫之集下 藤原定信筆
平安時代



青磁袴腰香炉 南宋～元時代



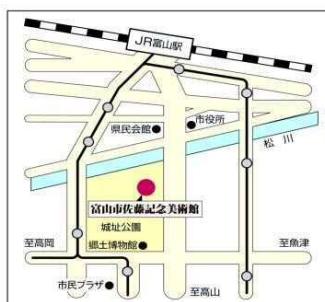
越中瀬戸焼耳付茶入 江戸時代



呉州染付山水文水指 明時代末期



兔図 俵屋宗達 江戸時代



【交通案内】

- 富山駅から徒歩10分 ■市内電車「国際会議場前」下車 徒歩3分
- 地鉄バス「城址公園前」下車 徒歩2分 ■富山空港より連絡バスで20分
- 北陸自動車道 富山I.C.より車で15分
- ◎当館に駐車場はございません。最寄りの駐車場（有料）は城址公園地下駐車場です。

【当館では、新型コロナウイルス感染症対策を実施しています。】

- ・入館の際には、手指の消毒やマスクの着用などのご協力をお願いします。
- ・十分な間隔を保ってご観覧いただくため、入場制限を行う場合があります。
- ・感染拡大状況によっては、やむをえず会期を変更または休館することがあります。